

「日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会」発足にあたり

各分野の網羅的・横断的な発展めざし
魅力ある企画で積極運営を

6月30日～7月2日、第1回総会・学術講演会を開催

日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会

理事長 はらぶち やすあき 原 洵 保 明

(旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授)



日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 (Japan Society of Immunology, Allergology and Infection in Otorhinolaryngology : JIAIO) は、1983年に発足し約40年の歴史を有する「日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (JIAO)」と、日本耳鼻咽喉科感染症研究会 (1971年～) と日本医用エアロゾル研究会 (1977年～) との合併により2013年に発足し、前身の両研究会を含め約50年の歴史を有する「日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会 (JSIAO)」の両者が2020年に発展的に統合し発足した最も新しい学会です。

日本耳鼻咽喉科学会の関連学会の中で、臓器別に構成された他学会とは異なり、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域およびその関連領域における免疫学、アレルギー学および感染症学、そしてエアロゾル療法の網羅的・横断的な進歩と発展を図るとともに、会員相互の交流と親睦の促進を目的としています。

私は本学会の初代理事長として、前身の両学会の伝統を継承するとともに、学術・診療レベルの向上、横断的領域の融合化、国際化推進、若手・後進の育成、女性医師の参画を目的に、会員のモチベーションが高まる新たな魅力的な学会企画を多く掲げ、積極的に学会を運営していきたいと考えております。

* * *

本学会が網羅する分野・疾患としては、鼻アレルギー、口腔アレルギー症候群、喉頭アレルギーを代表とするアレルギー疾患、中耳炎、副鼻腔炎、咽頭・扁桃炎、喉頭炎、頸部膿瘍などの感染症、アレルギー疾患や感染症の基礎となる上気道免疫学、近年、人口の高齢化とともに増えてきたANCA関連血管炎性中耳炎 (OMAAV) や肉芽腫性血管炎などの自己



日本耳鼻咽喉科
免疫アレルギー感染症学会

Japan Society of Immunology Allergology and Infection in Otorhinolaryngology

<http://www.jiaio.umin.jp/>

免疫疾患、今やがん治療の大きな位置を占めているがん免疫療法、その基礎となる分子腫瘍学、腫瘍免疫学、そして上気道感染症の局所療法として重要な位置を占めているエアロゾル療法が挙げられます。

これらの分野・疾患は互いに研究方法や診療方法などで共通するものがあり、それらを横断的に研究し診療に生かすことが本学会の目的の大きな柱となっています。中でも今や国民的疾患となったスギ花粉症を代表とする鼻アレルギーに関する診療や基礎的研究は、厚生労働省が掲げる「アレルギー疾患対策基本法」の根幹を成しています。また、上気道感染症は、同じく同省が掲げる「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」の対象疾患として最も頻度が高く、重要な位置を占めています。加えて、多くの頭頸部がんが対象となるがん免疫療法は、従来の「がん対策基本法」の理念に最も合致する治療法と言えます。それゆえ、これらの疾患から国民の健康を守り回復に導くためには、この領域を専門とする本学会会員の果たす役割は極めて大きいと言えます。

* * *

このような背景から、これら疾患に対する診療ガイドライン作成を目的として、次の通り5つのアドホック委員会を、継承 (前身のJIAOまたはJSIAOから①～③) または新規 (④～⑤) に立ち上げました。これらの他に、常設委員会としてJSIAOから



第1回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 総会・学術講演会
<http://www.jiaio1st.umin.jp/>

継承した3つの委員会（⑥～⑧）を設立しました。

■アドホック委員会

- ①鼻アレルギー診療ガイドライン委員会
- ②小児急性中耳炎診療ガイドライン委員会
 (日本耳科学会、小児耳鼻咽喉科学会と合同)
- ③急性扁桃炎・咽頭炎ガイドライン委員会
 (日本口腔・咽頭科学会と合同)
- ④上気道感染症対策・抗菌薬適正使用検討委員会
- ⑤口腔アレルギー症候群診療ガイドライン委員会

■常設委員会

- ⑥医用エアロゾル研究推進委員会
- ⑦三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会
- ⑧ICD講習会委員会

また、新たな企画の一つとして、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域とその関連領域に関する免疫学、アレルギー学および感染症学の発展に貢献した会員を対象に4つの賞を設けました。まずは、前身のJIAOから継承した「奨励賞」で、若手研究者の育成を目的とします。次に、顕著な基礎研究または臨床研究の業績を有し、将来、本分野の発展に大いに貢献が期待される会員を対象にした「学会賞」、さらに国際的に高く評価される卓越した基礎研究あるいは臨床研究の業績を有し、同分野における本邦の地位向上に寄与した会員を対象に「特別賞」を設けました。加えて、本学会誌に掲載された優秀な論文や症例報告を対象に、和文論文のみならず、将来の英文学会誌を見据えて英文論文の2論文に「優秀論文賞」が与えられます。これらの賞を設けることによって、

学術研究や診療に対する会員のモチベーションの向上につなげたいと考えています。

* * *

学会運営の新たな試みとして、前身の両学会で行われていた8つの会務に加えて、「企画」「男女共同参画」「国際化推進」「将来構想」を新設し、合計12の会務を組織しました。

企画委員会、将来構想委員会では、それぞれ学会が掲げる中期的目標、長期的目標に対して、新入会員の獲得、若手研究者・臨床医を対象としたセミナーの企画、基礎・臨床研究の統括・支援制度の確立、アレルギー疾患やがんに対する免疫療法認定医制度や上気道感染症に対する抗菌薬適正使用認定医制度、学会誌の国際誌化などの企画とその達成に取り組んでいきます。国際化推進委員会では、欧米の国際学会との連携、世界的トップランナーの招請、若手研究者・臨床医の海外留学支援などを行います。

男女共同参画は本学会の大きな柱の一つです。学会運営に女性を積極的に登用し、女性理事枠を設けました。また、常任幹事、委員会の委員長や委員にも女性を多数起用し、学会の発展に大いに貢献していただきます。キャリアアップを志す若手女性医師のロールモデルとしても活躍を期待しています。

* * *

第1回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 総会・学術講演会は、金沢大学の吉崎智一会長の下、2021年6月30日～7月2日の3日間、金沢市で開催します。本学会は発足したばかりですが、以上述べたように多くの興味深い企画を組みます。多くの先方のご入会とご支援を心からお願い申し上げます。